

# 校内研修計画

甲州市立東雲小学校

## 1. 学校課題

本校の児童は、明るく素直であり、友達とも仲良く協力して活動したり、決められたことに真面目に取り組んだりすることができる。縦割り活動などでは、上級生が下級生の面倒をよくみており、そのことが次の学年に引き継がれている。また、地域や学校でも自然にあいさつが交わされるようになってきている。

学習面については、昨年度、校内研究で算数科の「数と計算」に着目し、系統性を意識した「わかる」授業づくり、自力解決から「学び合い」を行い、児童の学習意欲を高めてきた。11月のQ-U検査の結果では、5月に比べ、すべての学年で学習意欲が向上していた。

また、昨年度の山梨県学力把握調査（H27年度）の結果、NRT検査の結果からは、本校児童の平均正答率は、県、全国の傾向とほぼ同じであり、今までの研究の成果として「記述して表現する力」に一定の向上が見られることも分かった。

しかし、指示された課題などには一生懸命取り組むが、自ら主体的に考えて学習する姿勢は、まだ弱いと感じる。また、前述の調査、検査では、算数科の「数と計算」「数量関係」の領域にやや課題があること、さらに、クロス集計によると、授業の中で、二次支援、三次支援が必要とされる児童が、各クラスに3～5割ほどいることも分かった。そこで、今年度は、算数科の各学年の課題となっている領域で、すべての児童が学習をより分かったり、できるようになったりすることをめざしていきたい。そして今まで培ってきた力を、毎日の授業の中にさらに結び付け、学力の向上を図っていきたい。

## 2. 研究主題 「自ら考え判断し、意欲的に学習する児童の育成」

～ 算数科における授業の構造化を意識した学習活動の工夫 ～

## 3. 主題設定の理由

本校は、昨年度「自ら考え判断し、意欲的に学習する児童の育成」をテーマに、算数科での授業の構造化を意識した授業づくりを考え、実践してきた。「課題設定の際にめあてを明確に提示し、見通しをもたせるようにすること」、「学び合わせるための手立てを考えること」、「振り返りの部分で学んだことの価値に児童自身が気づき、深められるようなまとめをすること」を指導上のポイントとして授業に取り入れたので、児童は授業で何を学習したのかが分かり、学習意欲が高まってきている。

そこで、今年度は、今まで積み上げてきた実践を生かし、構造化を意識した算数科の授業づくりをさらに進めたい。構造化することは、児童がどのような反応をするのか予想を立て、そのための手立てを考えることでもあるので、児童にとっては、「学ぶ楽しさ」や「考える楽しさ」を味わえる。そのような授業によって「学習ができた、わかった」の実感を積み重ねることは、児童の主体的な学びに結びつき、学習意欲の向上にもつながるはずである。具体的には「見通しをもたせる」「学び合い」「振り返りをする」の指導上のポイントに、スモールステップの導入、授業での児童の理解度の把握、ノート指導などの点を加えた学習活動を行い、「自ら考え判断し、意欲的に学習する児童の育成」をめざしていきたい。

#### 4. 研究の具体的内容と方法

##### (1) 具体的内容

- 算数科における「授業の構造化」を意識した学習活動の工夫について（理論研究・実践・検証）
  - ①学級集団づくり（Q-Uの分析と結果を生かした取り組み）
  - ②導入部分で見通しを持たせるための工夫
  - ③学び合いを深めるための手立て ・スモールステップ ・授業での児童の理解度の把握
  - ④思考を深めるためのノート指導と振り返り
- 言語活動を整えるための日常的な取り組みの共有
- NRT の分析と結果を生かした取り組み
- 授業案の作成・検討及び授業実践
- 全学年を通じた学習規律の確立

##### (2) 研究の方法

- 講師を招いての学習会
- 授業研究会（2回）
- 一人一実践授業

#### 5.年間校内研修計画

研究主任 山縣 重人

実施月日	研修内容（領域）		担当・学年	T・C要請
4	1 3	第1回 研究の方向性について	研究主任	
	2 7	第2回 研究主題・内容・方法・組織・年間計画	研究主任	
5	1 1	第3回 ブロック研究（授業づくり）	ブロック長	
	2 5	第4回 ブロック研究（K・13法での分析）	ブロック長	
6	8	第5回 学習会	研究主任	○
	2 0	第6回 分析結果の全体確認 ブロック研究（授業づくり）	研究主任	
7	1 3	第7回 一人一実践授業の交流会	研究主任	
8	1 7	第8回 教育課程	教科主任	
9	7	第9回 ブロック研究(授業づくり)	ブロック長	
	1 4	第10回 ブロック研究（授業づくり）	ブロック長	
1 0	5	第11回 ブロック研究（授業づくり）	ブロック長	
	1 2	第12回 一人一実践授業の交流会 授業案検討（1年）	研究主任	
	2 4	第13回 授業案検討（5年）	研究主任	
1 1	2	第14回 研究授業・研究会（1年）	研究主任	○
	9	第15回 研究授業・研究会（5年）	研究主任	○
	1 8	第16回 ブロック研究（K・13法での分析）	ブロック長	
	2 5	第17回 一人一実践授業の交流会 分析結果の全体確認	研究主任	
1 2	1 4	第18回 ブロック研究のまとめ	ブロック長	
1	1 6	第19回 研究の成果と課題のまとめ	研究主任	
2	2 2	第20回 来年度の研究の方向性について	研究主任	
3	1	第21回 研究紀要作成	研究主任	

※研究テーマに沿って全員が授業実践を行い、参観、交流することにより、研究を深める。